

2 サツマイモ基腐病対策による担い手農家の育成

サツマイモ基腐病被害軽減技術の取組

成果の要約

- 1 チラシを作成し全集落班回覧を行った結果、周辺農家の理解が進み、園芸農家や畜産農家等との農地交換がスムーズに図られ、150haの健全農地が確保できた。
- 2 作業部会員で2週間おきにサツマイモほ場を一筆毎巡回調査を行い、発生株の早期発見、早期抜き取り・防除等呼びかけた結果、被害「少」以下を99%に抑えることができた。

1 対象

- (1) J Aいぶすき山川サツマイモ部会 35戸
- (2) 重点指導農家 6戸
- (3) 大規模経営体及び規模拡大志向農家 10戸

2 課題を取り上げた理由

- (1) サツマイモ基腐病は、平成30年に開闢地区で発生が確認され、その後、年々拡がり、平成2年には市内全域に、令和3年には、基腐病の症状が確認されたほ場が作付面積の80%となった。
- (2) サツマイモ基腐病対策技術の確立・普及は、サツマイモ産地の維持、サツマイモ農家の経営安定を図る上で緊喫な課題であり、重点課題に位置づけ早急に課題解決を図ることとした。

3 活動の内容及び成果

- (1) 推進体制
農政普及課指宿市十二町駐在、指宿市、J Aいぶすき、鹿児島県くみあい食品で南薩地域サツマイモ基腐病対策PT指宿市作業部会を構成し、ワンチームとして活動した。
- (2) サツマイモ基腐病の周知、対策等啓発
作業部会では、サツマイモ基腐病の理解促進と対策等の周知を図るため、1月と6月チラシを2,500部ずつ作成し、市内全集落班回覧を行った。
その結果、周辺農家の理解が進み、園芸農家や畜産農家等との農地交換がスムーズに図られ、150haの健全農地の確保ができた。

(3) 一筆毎巡回調査・指導

指宿市作業部会では、4月から11月まで、2週間おきにサツマイモほ場を一筆毎巡回を行い、発生ほ場にお知らせ杭、発生株にお知らせ棒を立て、耕作者等に連絡し、早期発見、早期抜き取り・防除等を指導した。



写真1 技術部会員による一筆毎巡回調査



写真2, 3 お知らせ杭とお知らせ棒

(4) 展示ほの設置

健全農地に健全苗（バイオ苗）を植え、枕
敵の除去等排水対策行い、アミスター20 フ
ロアブルを主体とした薬剤散布を行う展示
ほを2ヶ所設置した。

ア 葉タバコ跡地利用

被害株率 4%，被害芋率 2%
上芋収量 3,550kg/10a

イ 園芸農家との農地交換

被害株率 0%，被害芋率 0%
上芋収量 2,970kg/10a



写真4 技術部会員巡回時の発生株調査

(5) 実証ほの設置

サツマイモ基腐病の被害を軽減する目的
で技術実証ほを4ヶ所設置した。

ア バスアミド微粒剤の全面混和

被害株率 35%，被害芋率 17%
クロピク畦内消毒より効果が高い。

イ バイオチャージの混和

被害株率 33%，被害芋率 8%
効果は判然としない。

ウ スーパーエンザイムルートの混和

被害株率 70%，被害芋率 15%
効果は判然としない。

エ 耐病性品種「紅まさり」「すずほっくり」
被害無し

「紅まさり」「すずほっくり」はサツマイ
モ基腐病に強い。



写真5 実証ほの坪堀調査

(6) 講習会，研修会の開催

サツマイモ基腐病に関する知識や蔓延防
止基本技術の理解促進等を図るため，7月，
9月，12月に講習会・研修会を開催した。

〈対策基本技術〉

- ① 健全農地の確保 ②健全苗の確保
- ③ 育苗床の消毒と表面被覆 ④苗消毒
- ⑤ ほ場の消毒 ⑥排水対策 ⑦発生株
の早期発見・早期抜き取り・防除
- ⑧ アミスター20フロアブルを核とした薬
剤散布 ⑨残渣処理等

《令和4年産サツマイモ基腐病発生割合》

無：48% 微(3%未満)：49%

少(3~20%)：2% 中(21~40%)：1%

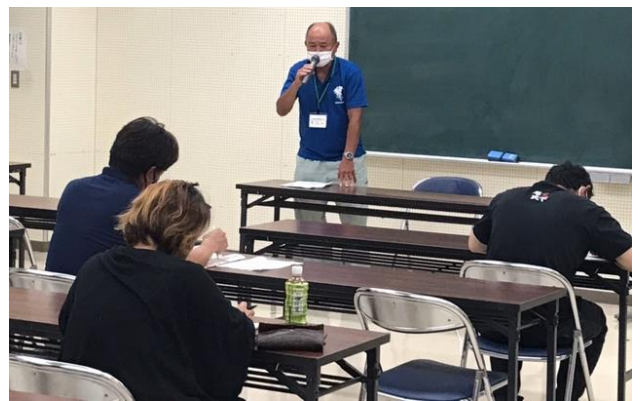


写真6 山川地区での研修会



写真7 収穫残渣を持ち出したほ場

4 今後の課題

健全農地の確保，排水対策，早期発見，早期抜
き取り・防除，アミスター20フロアブルを基軸
とした薬剤散布，残渣処理と分解促進等基本対
策技術の励行。

5 担当した普及職員（○はチーフ）

○三島，上赤，上福元，外菌